


京都教区時報



京都教区広報委員会
(編集長 村上透磨)
京都教区本部事務局
京都市中京区
河原町通三条上る
TEL 075-211-3025
FAX 075-211-3041
honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

4頁 乾隆神父のイタリア留学記(3)

5頁 教会学校研修会

点訳版「京都教区時報」〈無料〉
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。
TEL・FAX 079-431-8601

2020年 司教年頭書簡を読む(10)

ともにいてくださる神への感謝

私たちの毎日は、神の愛と恵みによって生かされていることを、感謝することから始まります。

今日、私たちは、新型コロナウイルス感染症の拡大によって、体験していることについて考えなければなりません。

私たちは皆、パンデミックが過ぎ去り、普通の生活に戻ることを願っていますが、本当にコロナウイルス拡大前と同じような生活に戻りたいのでしょうか？

日本や世界の社会情勢は大きく変化しており、生活に関わる新しい問題や環境問題など、さまざまな問題があります。私たちキリスト者は、もとの普通の生活に戻るのではなく、新しい生き方(人生)を見つける必要があります。それは、私たちに新しい信仰生活を築き、感謝する機会を与えてくれます。私たちがこの新しい生活を実行するためには、福音の光が私たちを慈悲の道に沿って導き、神の計画に従わないものを変化させるのだということを忘れてはいけません。

神よ、日々ともにいてくださることに感謝します。正義と愛と平和のために力を尽くす私たちを、勇気づけてください。



将軍塚(京都市東山区の東山)からの夕日

聖霊は私たちを満たし、私たちの手の中には自分自身を再現し未来を見る機会を与えられています。家族として再び集まり、話し、挨拶するために、携帯電話を脇に置いて、お互いの顔を見てください。愛する自然を楽しんでください、星や月を見て、海や風を楽しんでください。そうすることで、私たちが子どもとしてくださった神への感謝の気持ちを、より大きくしてください。

日本の教会の使命は、神の光に向かって歩くためのチャレンジを呼びかけることです。そのために、全能の父である神が、私たちに勇気づけてくださるよう、マリアさまの取り次ぎによって祈りましょう。

アントニオ・カマチョ



すべてのいのちを守るため
『教皇フランシスコ訪日講話集』を読む⑧

寄り添うものになりましょう

教皇様のメッセージを読んでみると、「寄り添う」という言葉が出てきます。

先月号で書き落したと思うことが「寄り添う」ということです。それは現代社会に対する最も福音的な態度で、あらゆる人、あらゆる状況、あらゆる環境に及びます。それは単なる「交わり」ではなく、「つながり」です。しかも「愛のつながり」なのです。

私はここで教皇フランシスコとドミニック・ヴォルトンとの対話集「橋をつくるために」を参考にしながら書いています。

教皇は「傷ついた家族」について、四つの基準を語り、それは「迎え入れ、寄り添い、状況を見極め、受け入れることです」と言います。しかし、今家庭で多くの青年は、傷ついています。家庭だけでなく、社会でも。行き場を失った彼らの呻(うめ)きが聞こえますかと、教皇は問うているのです。

今、政権が交代したばかりの日本において、「そばに寄り添うこと」、それをまづ政治家に呼びかけます。そして、教会指導者(司教をはじめ、一般信徒であ

れ、誰でも)にも、「そばに寄り添う」とこと、「世俗化に注意する」ことを呼びかけたい。今、求められるのは「解放の神学」より「民衆の神学」で、教会の豊かさは弱さにあります。それは、小さな人、貧しい人、病気の人、底辺にいて精神的に弱っている人に寄り添う神学です。そして教会の豊かさは、罪人のところにあります。これが、真福八端に生きる者の姿です。

教皇は、「顔のこわばった聖職者や信徒」が苦手だと言われます。そして、いろんな言葉が教皇の口から飛び出します。指導者たちは真面目になりすぎて「顔がこわばった教会」になっています。

- どうか笑顔になってください。
- 陰気な賢人は、くだらない聖人です。
- 神を事物化してはなりません。
- 「優しさ」、そばに「寄り添うこと」を私はよく使いますね。「殿様にならないで」と。―などです。

そして、私が心打たれた言葉は「美の中に神を見出す」です。でもそのことにはあまり注目されていないようです。

1981年のヴィジョンから1989年のNICЕE1それ以後について、もう少し補足させてください。

私たちは青年たちに寄り添い、見守っておりまし。NICЕEは青年たちに感動を生み出し、それが青年センターの設立へと繋がりました。あの時、私たちは青年たちに静かに「寄り添い」、「見守

り」、「励ましたい」との願いがありました。

越知師と私は京都教区の意向を伝えたく、代表者の中に必ず青年を加えてくださいと要望書を出しました。しかし、結果は青年の数が少なかつたのです。明日のヴィジョンを作るのに青年がいないは。そこで、青年を書記団として参加させてほしいとの願いが聞き入れられたので、若い柳本師に頼んで書記団養成を頼みました。京阪神が中心でしたが、約160人が参加できるようにになりました。NICЕE当日、彼らには発言権はないとされたのですが、代表者の中で嬉しい違反が起こり、彼らも討論に引き入れられたのです。そして最後の夜、彼らも徹夜して宣言文を作り上げました。発表当日、青年代表下平美砂さんの感動的な言葉が飛び出します。「眠っている人々

京都カトリック 青年センター発足 さあ こぎだそう!





京都教区時報1989年2月1日141号より

を目覚めさせてください」。そして青年の宣言が読み上げられました。それは、どんな感動を呼び起こしたことでしよう！

そしてもう一つ、地下ホールでは青年たちの手作りのミサが行われました。司教様方、神父様方も皆で腰かけて、食卓を囲むように司式してください、一つのミサが生まれたのです。彼らの一番大きな感動は、このミサであったと述べています。NICEが終わって、京都教区では、代表者、青年団、会議準備委員会の人々が手分けして報告会を行いました。私たちの青年への思いは、彼らの自発的な行動を見守ること。ウォーカーソンもその一つでした。こうして1989年1月15日、青年センターが発足しました。青年センターは、今もいろいろな方の支えにより発展を続けています。

アジア体験学習も、特にチッタゴン教区(バングラデッシュ)の青年派遣も、教区創立50周年を期し、またNICE後の継続的な活動の場として設立されたアジア交流委員会の活動の一つでした。それは今、済州教区との交流に形を変えているようです。こんなことを書くのは、彼らの活動をずっと「見守っている者」がいることが励みになればと願っていること。青年よ、どうぞ歩き出してください。私たちはあなたの方を見守っているのです。あなたの方に教会の希望があります。

村上透磨

所属ブロック 司祭名	配信内容など	QRコード
奈良ブロック 柳本 昭 神父	奈良ブロックのHPに主日のお説教と、教会学校用のプリントを掲載	
奈良ブロック ホン・ユンハク 神父	大和高田教会の非公開の主日のミサを配信 奈良ブロックのHPより閲覧可能	
滋賀ブロック 小立花 忠 神父	YouTube で、週日(平日)のミサを配信	
三重南部ブロック 奥村 豊 神父	YouTube で、朝晩の祈りの配信	

神父さまが、
発信しています！

コロナの時代
教区で働く司祭の発信情報



*10月号に引き続き、教区内の神父さま発信情報を掲載いたしました。QRコードをスマホで読み取り、のぞいてみてください。ミサが再開された場合、配信などを変更される場合がありますのでご了承ください。

コロナウイルス下で活動が制限される中、青年センターでは季刊誌「じょばに」の7月号をオンラインで掲載してみました。先月の時報で告知したのですが、皆さん読んでくださいましたか？ 興味のある方は「京都カトリック青年センター」で検索してみてください！

試しに始めた「オンラインじょばに」でしたが、青年の動画や音声をお届けすることができるなどの利点も多く、次号もオンラインでの発行を検討しています。

青年の声だけでなく、神父様の言葉や、様々な青年企画の案内などを発信する予定です。次号も是非ご覧ください。お楽しみに！



京都南部地区運営委員・田辺教会 松浦隼人

青年センターあんでな

乾隆神父のイタリア留学記(3)

京都教区司祭 大塚乾隆

9月14日は十字架称賛の祝日で、答唱詩編は典礼聖歌59番「神のわざを思い起こそう」が歌われます。私はここで使われる詩編が好きなので、十字架称賛の前日9月13日の晩に、昨年京都から取り寄せた自分の叙階式の拝領の歌を聞きながら、詩編77を味わっていました。叙階式のDVDを見ることで、改めて当日来てくださった皆様、また心を合わせて祈ってくださった皆様に感謝しました。

9月14日、十字架称賛の祝日に、私にとって「ふしぎなわざ」が起こりました。今住んでいるコレジオは一日にミサが5回あります。でもどの時間に誰がいるかは、行ってみないとわかりません。この日は夕食前19時からミサをするつもりでした。行ってみたら、韓国人の先輩が一人だったので、「私がしても良いですか」と聞いて、十字架称賛のミサを主司式しました。コレジオに来て、しばらくは自分が主司式をすることはないだろうと思っていましたので、十字架称賛の祝日のミサで主司式ができることは、私

にとって大きな喜びでした。答唱詩編で歌われる「神のわざを思い起こそう、力ある不思議なわざ」がまさに実現したのです。

さて、ローマに引越して半月が経ちました。ローマに住んでいるとはいえ、ここはポルトガルの司教団が運営する寮です。

(1) ここはイタリア？

ポルトガル料理は、一皿目にスープをいただくようです。今までは当たり前のようにパスタが出ていたので、少し驚きました。そして、イタリア人が一人もいません。ですから、皆がイタリア語を話してはいるものの、ペルージャと違ってイタリア人の話すイタリア語を聞くことができないのです。そして何よりも、「時間通り」を求められます。少し失礼な言い方になるかもしれませんが、イタリアでは「時間は目安」です。でもここでは時間通りを要求されるので、最初の数日は戸惑いました。

(2) ローマを実感

それでも、自分がローマに住んでいると実感しつつあります。一つは、ミサの中で感じられます。世界は広いですが、

ローマだけでしょう。そうです、教皇はローマの司教なのです。ですから、ローマ以外では、「私たちの教皇フランシスコ、私たちの司教○○○○」と言いますが、ここでは「私たちの司教、教皇フランシスコ」と言うのを聞くと、「あっ、自分はローマにいるんだ」と実感できます。もう一つは、バチカンの城壁がジョングコースであることです。大体一周25分で走れます。

10月から大学が始まります。3年間ラテン語が必修のようなので、今は少しエリジンをかけ始めているところです。



奥の城壁の向こうはバチカン市国です。一年前にイタリアに来ましたが、まさかバチカンの周りをジョングコースとは、想像もしていませんでした。

教会学校研修会

「今、できる教会学校
〜新型コロナウイルス感染症対応〜」

信仰教育委員会

コロナ禍のなか、今年度の教会学校研修会はオンラインで行いました。8月29日(土)、京都教区内の13小教区から20名の教会学校リーダーが、例年とはちがいで、パソコンやスマホ、タブレットの画面で顔を合わせました。大塚司教様も入室くださり、ご挨拶と始めのお祈りをしてくださいました。そして、京都教区のなかで、現在ミサが再開されていない地区もwithコロナのなかで再開する予定なので、希望を持つよう励ましてくださいました。

研修会のテーマは「今、できる教会学校〜新型コロナウイルス感染症対応〜」で、信仰教育委員会の担当司祭、小立花師とウイリアム師が講師としてお話しくださり、その後、参加者から質問や提案などをいただき、分かち合いをしました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、京都教区の多くの教会で主日のミサが行われない事態が続く、教会学校も再開できない小教区やブロックがほとんどでし

た。洗礼・初聖体・堅信の秘跡も受けられない、また子どもたちが楽しみにしていた夏のキャンプや行事も取りやめとなった状況のなかで、子どもたちにどのような方法で、何を伝えたらよいのか、講師のお話を聴いて考えました。

ウイリアム師は、「家庭での祈り」の大切さについて話されました。コロナ禍のなかでミサがなくても、家庭で祈ることとはできる、教会だけではなくて祈りを毎日の家族の習慣にすること、祈る心を持つこと、他にたくさんすることがあっても神に時間を返すことが大切、と話されました。そして、家族で福音を読んでも黙想するなど、ミサに行かなくても心を養い、神に感謝することを忘れないでほしいと語られました。

次に、小立花師がどのように子どもたちの信仰教育を行うかの具体的方法や、ミサがない自粛期間だからこそのことについてお話しくくださいました。配信されている動画の活用、ZOOMなどを用いての教会学校など、オンラインでの方法の提案、またオンラインが難しい場合は、手紙で宿題を提供したり、「こじか」の郵送をしたりなど、いろいろな取り組みによって、とにかくつながっていることが大切で、そのためには保護者の協力が不可欠であることも強調され

ました。しばらくは、普段通りに教会学校運営はできないかもしれないが、withコロナで三密を避けながら、コロナ対策をして野外で活動することを検討するなど、あきらめずに今できることを考えるよう、促してくださいました。そして、自粛期間だからできる「祈り」「黙想」の大切さに触れ、ミサがなくてもきちんと祈ることを、子どもたちに伝えてほしいと話されました。

お二人のお話を聞いて、参加者全員に質問、提案、現状などをお話しいただき、画面上ではありますが、顔を合わせたりリーダーどうしのつながりも確認していました。他小教区や他ブロックの工夫や取り組みを聞いて大変参考になり、何とか子どもたちとつながっていくよう努力しておられる姿を垣間見たことによつて、とても励みになったようでした。

小立花師はお話の中で「困難なときこそキリスト者は強く生きる」と述べられました。その言葉どおり、この研修をとおして、どんな状況でも「子どもたちのために何かできる」という希望を持って、子どもたちと関わる力をいただきました。

大塚司教の11月のスケジュール

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、スケジュールの変更がありますので、最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。

11月のお知らせ

教 区

正義と平和協議会 / Tel.075(366)6609 ㊦㊧

現地学習会

「人権のふるさと

水平社博物館と御所教会を訪ねる」

日 時：23日㊦ 8:00～16:00

参加費：3,000円

定 員：18名(先着順)

申込、問合せは正義と平和協議会まで

聖書委員会 / Tel.075(366)6609 ㊦㊧

オンライン聖書講座(10～2月)

テーマ：コロナの時代に聖書を生きる

—混沌への光を探して— (全5回)

講 師：中川 博道師(カルメル修道会)

日 時：12日㊦ 10:30～11:50

申込者限定配信 オンラインで開催

詳細は聖書委員会まで

広報委員会

お知らせに載せたい情報は、原稿締切り

日までに教区広報委員会宛メール

honbu@kyoto.catholic.jp または

Fax.075(366)6679 に発信者のお名前を明記してお寄せください。

※ 2021年1月号の原稿締切り日は11月18日㊦です。

訃報

エウヘニオ・モンリアル師
(エスコラピナス修道会)

85歳。2020年8月28日、スペインにて帰天されました。1959年来日、長年京都教区内でご奉仕くださいました。神父様の永遠の安息のためにお祈りください。



諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

練 習：8日㊦、22日㊦ 14:00

洛星宗教研究館

28日㊦ 18:00

ミサ奉仕後 河原町教会聖堂

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練 習：12日㊦ 10:00 / 26日㊦ 10:00

河原町教会 2階楽廊

練習中止の場合は、会員連絡網にて

カトリック京都働く人の家(九条教会内)

定例会：8日㊦ 15:30～17:30

(ZOOMでも参加できます)

対 象：15歳～35歳の方 どなたでも

問合せ：090(8207)1831 瀧野

聴覚障がい者の会

手話表現学習会(聖書と典礼)

日時：11月26日㊦ 13:00～15:00

会場：希望の家地域福祉センター

京都市南区東九条東岩本町31-10

感染防止対策の上、自己判断でご参加ください。コロナウイルスの蔓延状況により中止となる場合もあります。

問合せ：事務局 阿野 Fax：075(361)9082

心のともしび ラジオ番組案内

(全国34局で放送)

KBS京都 ㊦～㊧ 朝5:55 ㊦ 朝5:15

ラジオ関西 ㊦～㊧ 朝5:00 ㊦ 朝6:05

11月のテーマ「約束」

